

# TOREK 自然農法 ホットニュース

第 119 号 2008.3.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## ホットニュース発行 10 年をむかえて 1

おかげさまで、ホットニュースは今年 5 月に発行 10 年を迎えます。自然農法の実施、消費、流通に関してのさまざまなニュースを発信し続けて 10 年。そこには多くの学びと喜び、感謝がありました。

そこで、ホットニュース編集に携わってきた TOREK 自然農法責任者 関谷に、この 10 年間の自然農法への思いと、これからの抱負について聞きました。

スタッフ:記事を編集することで生まれた動きはありますか？

関谷:生産者との交流ですね。それ以前はあまりそういうことがなかったですから。また、具合が悪いときに、自然農法の作物を口にできたとか、楽になったなどの良い情報も集まるようになりました。

スタッフ:平成 11 年には体験学習も始まって、購入者が生産現場に足を運ぶようになりませんか。

関谷:そうですね...平成 10 年までの約 10 年間に、個人で実施される人が増えてきたんですが、そういう実施者の田んぼや畑で体験学習が行われるようになったんです。そういう人たちは、さらにさかのぼって昭和最後の約 10 年間に、自然農法を実施するグループや集まりがワッと増えたんですけど、そういうところで学んだ方々ですね。また、平成 10 年というところはまだ市川生産グループのお茶以外、無施肥無農薬の作物の販売は少なかったですね。

スタッフ:当時は荒木さんから届く野菜が主でしたよね。今は必ず野菜か加工品が販売されていますね。

スタッフ:農産展についてはどうですか？

関谷:ホットニュースでは必ず記事にしていました。たとえば昨年(平成 19 年)の夏は、出品作物が 339 点、実施者 70 名、さかのぼって平成 10 年夏は、出品数 253 点、実施者 58 名...。この 10 年、新しく始めた人と、色々な事情によって、やめた人もいますが、結果的には...それほど増えてないですね...。改めて見ると、これはショックです。これは声を大にしていかなければいけないですね。

農産展の展示に関しては、今ちょうど係で話し合っているところです。何のために作物を並べるのか。無施肥で出来るということは分かった今、その上で、さらに発展していく段階に来ている。展示を見て、よし俺もやろうと思えるような何かを考えていく必要があります。

例えば今後、高齢化などの事情で、継続できない実施者も出てくるとすると、それを上回る新規の実施者が出なければ、出品者数が減っていく可能性もありますね。今ここで自然農法をやることの意味、喜びを、再確認する必要があるかと思えます...。(120 号に続く)



ホットニュース1号

## 自然農法 稲作会合

3月7日、初の「自然農法 稲作技術交流会」が東京八王子にて行われました。新潟、長野、福井、石川、千葉から生産者が集い、今年度、無施肥無農薬の稲作を始めるにあたっての意見交換がなされました。

食の安全を求める消費者の期待を背負い、自然農法をつらぬこうとする思いと、具体面では、種子の選別、箱苗の土に何をを使うか、浸種、播種、代掻き、田植えなど、それぞれの取り組みを確認しあい、影響しあう生産者の姿が印象的でした。今年のお米も期待できます。



## あの畑に行ってきました！

今回訪問したのは、内田久恵さんの畑。内田さんについて思い出されるのは、ホットニュース 94 号の塩野さんの体験談の一節である。

「(末期の肺ガンで)衰弱した体には市販のものはのどにつかえてもどしてしまう。ところがお友達の内田さんは家庭菜園でとれた作物をたくさん届けてくださいました。特にラディッシュを甘酢漬けにして食べた時、飲み込んだとたんに消えてなくなるように胃に吸い込まれていったことを忘れてはなりません」

あのラディッシュを作った畑に行くと思うと胸が高鳴る。関越の川越インターを降りて 10 分。まわりはマンションやコンビニ、まったくの市街地の中に、オアシスのように畑はあった。

2 月の終わりにしてはとても暖かい。ピンク色のセーターを来た内田さんが温かく迎えてくれた。さっそく目的のハクサイを見せていただく。「すごい！立派だ！」思わず口に出してしまった。ハクサイやキャベツなど巻きが必要な作物は作るのが難しい。内田さんがハクサイを掘ってくれた。無施肥無農薬栽培土 2 年目と 8 年目の二つの畑で作ったハクサイを比べて説明してくださいました。同じ大きさでも、土 8 年目の方が重く、根も深く張っている。実際に持つと驚くほど重い！

内田さんが初めてハクサイにチャレンジしたのは 3 年前。9 月に種をまいたが、ハクサイは開いて巻かなかった。近所の年配の農家の方が、この辺では 8 月中にまくもんだと教えてくれた。一昨年は 8/25、去年は 8/26 にまいたら二回ともよくできた。巻き始めるまで毎日、芯を食べる虫取りに励んだそうである。ビニールトンネルなどは一切なし。虫を手で取りきった努力には感服した。

後日談だが、同じ畑の一画で内田さんのお母様が無農薬・有肥で作ったハクサイは、お彼岸前にドロドロに溶けてしまったが、内田さんのは大丈夫。「もう収穫して物置においてありますが、4 月までもつか楽しみです」と話す内田さんの笑顔には自信が満ちていた。(編集部 関谷)



## jolie fille (ジョリフィーユ)をよろしく！



皆様おなじみ長野県松本市の宮澤弥生さんの工房が、3月21日より「ジョリフィーユ」としてリニューアルオープンです。このたび宮澤さんはご家族の協力のもと工房をリフォームし、業務用の設備を導入し、正式に保健所の認可も取得されました。奥様であり二児の母である一主婦の弥生さんが本格的に洋菓子屋さんを始められるには、大変なご苦労があったと思います。弥生さんをここまで突き動かしたのは、皆様の「おいしかった」「具合の悪い方が食べられた」「アレルギーのある方が食べることができた」など喜びの声と、安全な食材を生産して下さる方々のひたむきな姿だそうです。

ジョリフィーユという名前はフランス語で「可愛い娘」という意味です。生産者の方々が愛娘の如く大切に育てた食材たちをお預かりし、花嫁のお支度をして旅立たせる。そんな想いでつけた名前だそうです。弥生さんのお父様は洋菓子職人で、東京でジョリーというお店を経営されていました。まさにその愛娘である弥生さんがジョリフィーユを始められたのですから、お父様も天国でお喜びのことと思います。弥生さん、これからもおいしいお菓子をたくさん作ってくださいね。

## 無施肥無農薬栽培物の販売予定

4月3日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- きじま平自然農産：小麦粉、納豆、大豆、豆菓子、きのこめし
- 市川生産グループ：煎茶 飯塚農園：みそ
- 中島農園：ジャガイモ、フキノトウ
- 長柄山自然農園：卵、シイタケ、コマツナのつぼみ菜
- 富田善嗣さん：白米(2.8kg 4,000円 他)
- よしたい農園：白米(1.2kg 1,000円、2.5kg 2,000円)
- ジョリフィーユ：プリン、マドレーヌ、いちごロールケーキ、シュークリーム 他



お知らせ 4月16日(水) 自然農法頒布会 鎌ヶ谷会場 (11:00 ~ 15:00)

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>